

歯周病リスク診断学入門

Introduction to Periodontal Risk Assessment

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② 歯周病リスク診断学
- ③ 歯周病・糖尿病連携
- ④ 歯周病の宿主修飾療法
- ⑤ 歯周病の予後評価

授業概要

歯周病は中年期以降の日本人の約 8 割が罹患する慢性炎症性疾患であり、その治療には主因子であるバイオフィーム中のグラム陰性桿菌である *Porphyromonas gingivalis* (P. gingivalis) の除去および宿主や喫煙などの環境因子のコントロールが必要不可欠である。そのため、歯周病のリスク（修飾）因子を理解することを目的に、歯周治療の予後に影響を及ぼすリスク因子分析に関する研究論文を題材に、内容の紹介、解説を行う。

授業科目の学修目標

歯周病は、バイオフィーム感染症を基盤とした多因子性の慢性疾患であり、また、生活習慣病的要素も考慮する必要があることから、歯周病の宿主修飾療法の重要性を理解し、関連の知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 歯周病のリスク因子と検査診断 6コマ 三辺正人
- ② 歯周病と糖尿病およびその合併症の関連 4コマ 三辺正人
- ③ 歯周基本治療、SPTの理解
 - ・口腔清掃指導、禁煙、食栄養指導支援について 6コマ 三辺正人
 - ・歯周病宿主修飾療法について（抗感染療法、抗炎症療法、認知行動療法） 6コマ 三辺正人
 - ・SPTにおけるリスク管理 4コマ 三辺正人
- ④ 歯周病基礎臨床研究に関する倫理規定 4コマ 三辺正人

教科書および参考書

ラタイチャーク 歯周病学 西村書店、ペリオドンタルメディシンに基づいた抗菌療法の臨床 医学情報社

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯周病リスク管理研究論では、歯周病の宿主修飾療法、歯周病と糖尿病関連、歯周病のリスク予後評価に関する林分を熟読して、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯周病のリスク因子、診査診断の項目、流れについて説明できる。
- ② 歯周病と糖尿病の医科歯科連携の必要性を説明できる。
- ③ 歯周病基本治療とSPTについて理解し、その重要性を説明できる。
- ④ 歯周病基礎臨床研究における倫理規範を理解し応用できる

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
50%	0%	25%	0%	0%	25%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回50%
- ・レポートは、歯周病リスク診断学の研究論5項目について課題を提出する。5%×5回=25%
- ・口頭試問は、授業終了後5回に分けて行い知識の理解度を判定する。5%×5回=25%

理想的な達成レベルの目安

歯周病リスク診断学入門の達成レベルは、75%以上とする。但し、倫理的理解は、100%とする。